

滋賀県内観光客数の動向について

～平成 25 年滋賀県観光入込客統計調査より～

平成 27 年 3 月
 (株)しがぎん経済文化センター
 産業・市場調査部 吉川

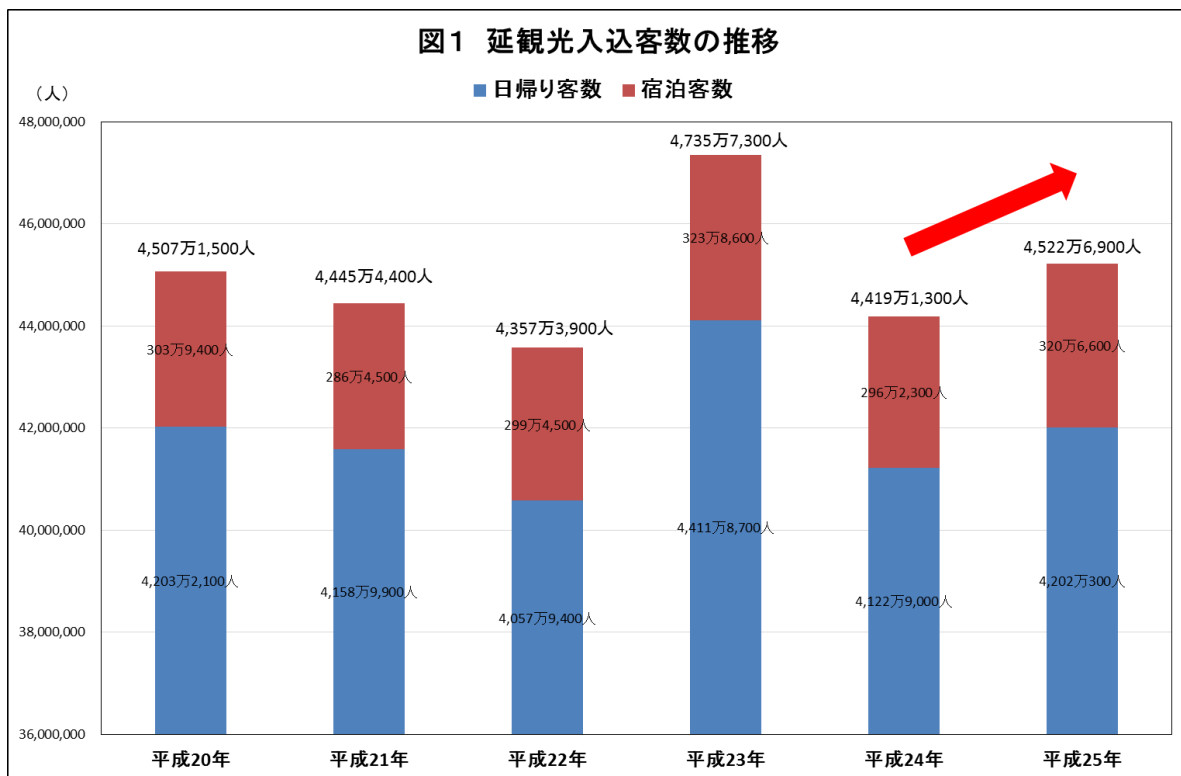
政府では成長戦略のひとつの柱として、「観光立国推進」をテーマに掲げ、各種の施策を実行している。滋賀県内においても観光客誘致のため、行政、民間問わずさまざまな取り組みが行われている。そこで今回は、平成 25 年滋賀県観光入込客統計調査をもとに、滋賀県内の観光客数の動向についてみてみたい。

1. 「延観光入込客数」は 2 年ぶりの増加

平成 25 年の県内の「延観光入込客数」は、前年比 103 万 5,600 人増加し、4,522 万 6,900 人となり 2 年ぶりの増加となった(図 1)。大河ドラマ『江～姫たちの戦国～』の影響により、過去最高となった平成 23 年度の水準には及ばないものの、増加基調に転じている。

季節的には秋(9～11月)に台風等の影響により 0.9%減となったものの、観光客が多くなる春(3～5月)、夏(6～8月)において、晴天日が多く、前年対比でそれぞれ 7.0%増、1.8%増となり全体を押し上げた。

このうち宿泊客数をみると、前年比 24 万 4,300 人増加し、320 万 6,600 人となった。

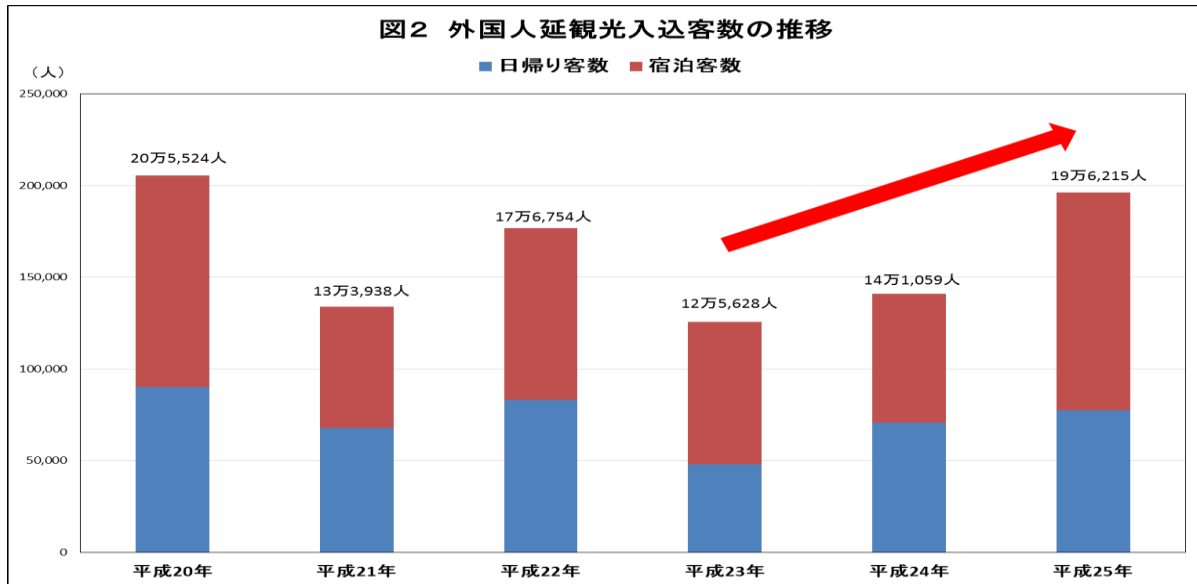


平成 25 年滋賀県観光入込客数統計調査をもとに当社作成
 以下同じ

2. 外国人延観光入込客数は増加基調

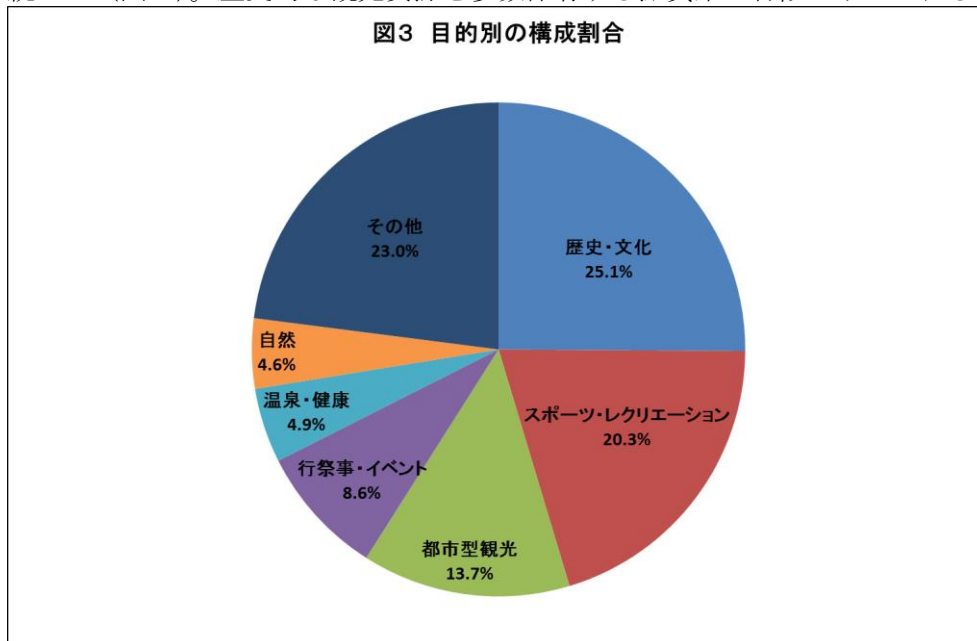
平成25年の「外国人延観光入込客数」は、前年比5万5,156人増加し、19万6,215人となった。内訳をみると、日帰り客数は7万7,537人と、前年比で9.6%増。宿泊客数は11万8,678人と、前年比で68.7%増と大幅な増加となった。

円安による割安感、ビザ発給要件の緩和、LCC（格安航空会社）の座席供給量の増加等が増加した要因となっているようだ。



3. 観光目的は「歴史・文化」が最多

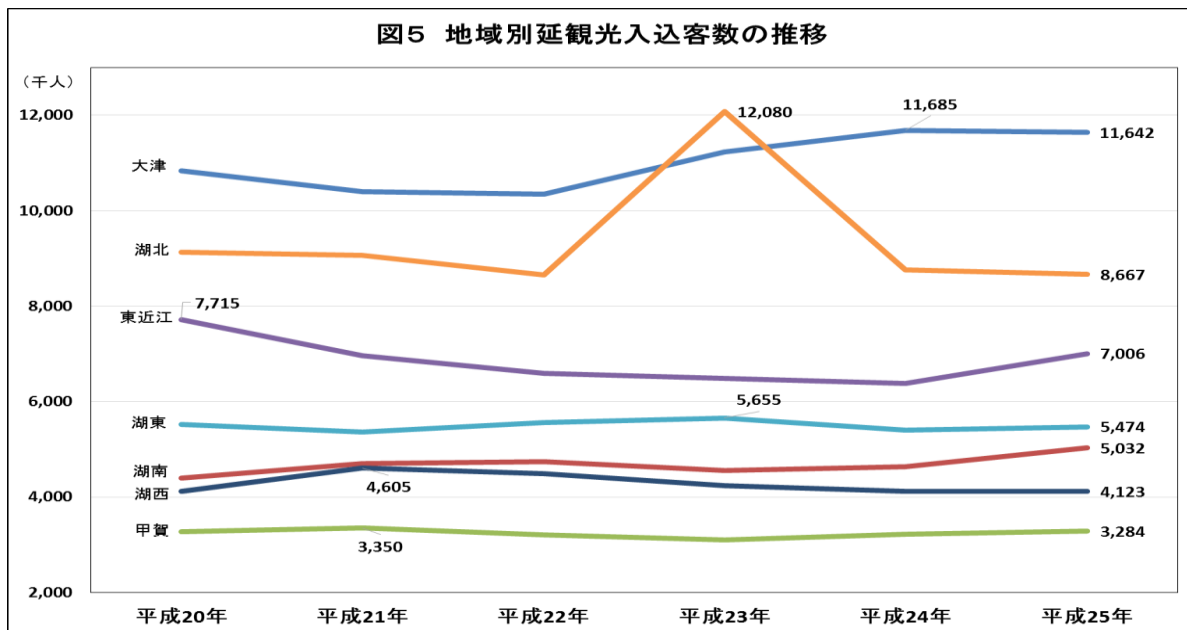
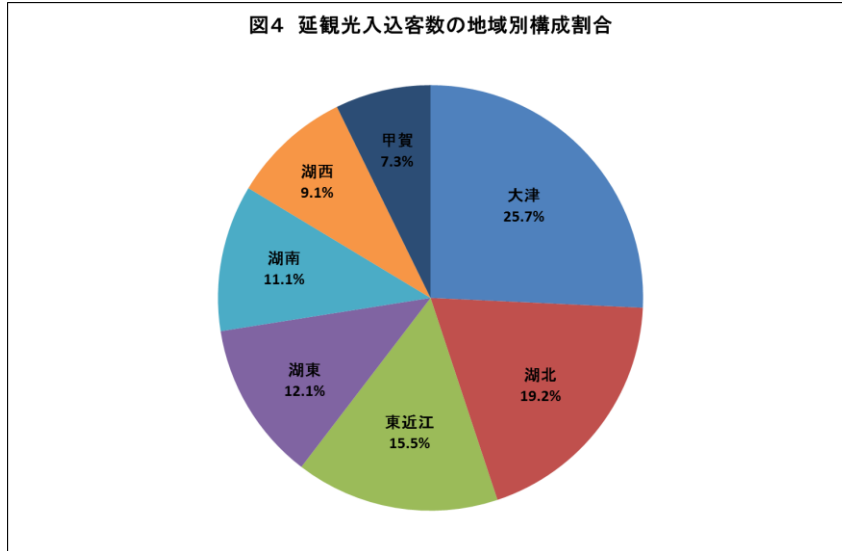
延観光入込客数を目的別にみると、「歴史・文化」が25.1%と全体の4分の1を占めた。次いで、「スポーツ・レクリエーション」(20.3%)、買い物・食等の「都市型観光」(13.7%)が続いた(図3)。歴史的な観光資源を多数保有する滋賀県の特徴がみてとれる結果となった。



4. 地域別では「大津」が4分の1を占める

地域別にみると、「大津」が最多の1,164万2,200人と、全体の25.7%を占めた。次いで、「湖北」866万6,500人（同19.2%）、「東近江」700万6,100人（同15.5%）が続いた（図4）。

図5は過去5年間の地域別推移を表したものだ。中身をみると、平成23年に大河ドラマ『江～姫たちの戦国～』の影響で「湖北」がトップになったが、同年を除き順位に変動はない。足元では「大津」「湖北」「湖西」除く4地域で増加傾向である。



5. 観光による地域活性化に期待

県内には琵琶湖や歴史的な文化遺産など、豊かな観光資源があることに加え、世界的に人気の高い京都へのアクセスの良さなどの強みがある。また、円安、ビザ発給要件の緩和、LCC（格安航空会社）の就航拡大等による外国人旅行者の増加、円安による日本人旅行者の国内回帰など、取り巻く環境は好転している。

これらをうまく活用し、地域ブランドを高め、県内の観光産業が発展し、それが地域活性化につながることを期待したい。

以上